

東海道五十三次を往く

第25回

京都から来る旅人が初めて太平洋の青い海に出会う場所。今回は、街道の中でも景勝地として知られる、潮見坂上の白須賀宿へ。

白須賀宿

美しい遠州灘を望む
遠江国西端の宿場

かつては坂下の海岸沿いにあった白須賀宿は、宝永4（1707）年に発生した大地震による津波で大きな被害を受け、現在の潮見坂上に移った。潮見坂は、京都から江戸を目指す旅人が、初めて海の景色と出合える感動の地で、広重も山間から望む遠州灘と、坂道を粛々と進む大名行列を描いている。遺構は少ないが、海の美しさと坂道の苦労には、古の旅人たちと同じ思いを抱けそうだ。



広重が描いた潮見坂から望む遠州灘。徳川家康は「長篠の戦い」で武田勝頼を破り、尾張へ凱旋する織田信長のもてなしの場として潮見坂を選び、茶室を造ったという。のちに明治天皇が江戸へ行幸する途中の休憩地にも選ばれ、記念碑が建てられた。



おんやど白須賀 白須賀宿歴史拠点施設
坂を登りきったところにある無料休憩所。東海道宿駅開設400年を記念して設置されたもの。展示室もあり、白須賀宿に関する貴重な資料の数々や、ジオラマなどが展示されている。

静岡県湖西市白須賀900
☎053-579-1777
🕒10時～16時
📅月曜（祝または振休の場合は翌日）、12/29～1/3



宿内には、東海道の宿場町を彷彿とさせる曲尺手（かねて）が見られる。これは直角に曲げられた道で、敵の侵入を防ぐ軍事的な意図があるほか、大名行列同士がかち合わないようする役割もあり、前方から他の大名行列が来ていないか、下見役に曲尺手の先を確認させながら行列を進めたのだそう。



潮見坂
多くの旅人が、紀行文などにその風景を表したという潮見坂は、500mほど続く急勾配。京都から来た旅人にとっては、海だけではなく、初めて富士山を望む場所でもあった。



白須賀宿には、遺構はなく、本陣跡と脇本陣は高札場などの標柱のみが残っている。写真左が本陣跡。「大きな建物だった」とある。



懐かしいホーロー看板も残る町並み。

